

## 成果の説明書

(氏名) 片岡美喜	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>1. 研究成果</p> <p>&lt;学会発表&gt;</p> <p>1) 高津英俊,片岡美喜,鶴川洋樹 (2019)『酪農の第三者継承における支援機関の役割と課題ー都府県地域を事例としてー』第 69 回地域農林経済学会大会,2019 年 10 月 27 日 (愛知大学豊橋キャンパス)</p> <p>2) Haruhiko Iba, Miki Kataoka”Institutional and Social Drivers Explaining Germany’s Past Success in Promoting Independent Female Farm Managers” Rural Sociological Society 83th Annual meeting, 2019.8.10(Richmond,USA)</p> <p>&lt;図書&gt;</p> <p>日本農業経済学会 (編)『農業経済学事典』「第 2 章 農業経済学のユニークネスと新展開 (農業・農村の教育力・福祉力 担当)」p50-51,丸善出版,2019 年 11 月</p> <p>2. 教育活動</p> <p>本ゼミナールは、群馬県農村整備課事業やま・さと応縁隊事業に採択され、(株)片品村振興公社の全面的な協力のもと、同村を中心とした農業・農村振興を目的とした地域調査や観光活動への支援事業を実施してきた。令和 1 年度も採択を受け、3 年生を中心とした教育・研究活動を進めてきた。今年度の学生による研究・地域支援活動は、(1)尾瀬国立公園における利用者のマナー問題に関する調査とセルフガイドスマップの製作、(2)道の駅かたしなを中心とした同村内のグリーンツーリズム促進活動である。</p> <p>上記の研究テーマに基づいて、学生たちが行った主な活動を 3 つ紹介したい。第 1 に、尾瀬国立公園における利用者マナー問題に関する調査では、同国立公園の調査を複数回実施した。7 月上旬に行った尾瀬合宿では、本学卒業生で (株)東京パワーテクノロジーの小暮義隆氏によるガイドにて、公園内の状況を確認し、情報交換を行った。その後のゼミ全体の合宿や、学生グループによる現地調査を重ね、特に海外からの来訪者に向けた案内の不足状況を確認した。こうした現状に対して、セルフガイドスマップの作製に向けた活動を実施した。</p> <p>第 2 に、道の駅かたしなを中心とした同村内のグリーンツーリズム促進活動の実施である。まず、学生ら若者が農業・農村に対してどのような認識を持っているのかについて、アンケート調査を実施した。地域調査では、片品村内のグリーン街道の農家の皆さんへの調査を中心に行い、体験農業や直売など 6 次産業化に取り組む状況を学んだ。これらの調査をもとに「おもしろいわ かたしな」とタイトルをつけたグリーン街道を中心としたグリーンツーリズムマップを作成した。約 1000 部を作成し、各農園および道の駅にて配布を実施している。</p> <p>第 3 に、五大学合同ゼミにて他大学との研究交流と実地調査を行ったことが挙げられる。同ゼミは、本学、和歌山大学、広島大学、広島修道大学、琉球大学の近しい研究領域のゼミナールで毎年合同の現地調査や研究交流を行うもので、10 年以上継続している活動である。令和 1 年度は和歌山大会が行われ、和歌山県紀美野町へ訪問した。同ゼミでは、紀美野町の I ターン、U ターン事業の調査を行い、実際に移住をした方々への聞き取り調査を行った。また、学生らは地域の方のお宅に分宿させていただき、地域農業や紀美野町の現状についてお教えいただいた。これらの活動や交流からは、グリーンツーリズムへの実体的な理解とともに、地域が直面する課題を現地の人から詳細にお伺いする機会となった。</p>	

3年生らは、これらの実践や現地調査、県内での調査を踏まえ、12月に立教大学で開催された第11回全国エコツーリズム学生シンポジウムにて報告を行った。このシンポジウムでは、2年生のゼミ生もポスター報告を行い、他地域の大学生やエコツーリズム実践家の方々からのアドバイスや情報交流ができる機会となった。また、2月に群馬県庁で行われたやま・さと応援隊シンポジウムでは1年間の活動成果の報告を行い、作成したグリーンツーリズムマップを配布するなど、成果を広く公表することに努めた。

今年度の活動を通して、学生らは国立公園および農業・農村の現状を知ると同時に、実践活動を行うことで6次産業化や観光地域プロモーションの難しさ、やりがいを体感し、それらが地域において何らかの一助になることにやりがいを感じる結果となった。

### 3. 学内業務

教務委員会、新カリキュラムワーキンググループメンバーとして、学内の教務関連の業務を実施した。

### 4. 社会活動

#### (1) 学会活動、その他地域活動

- 1) 個別報告座長,第4会場担当,令和元年度日本農業経済学会大会,2019年9月8日(宮城大学青葉キャンパス)
- 2) 分科会助言,「都市・農村交流」第24回全国小さくても輝く自治体フォーラム in 南牧村、全国小さくても輝く自治体フォーラムの会主催 2019年10月5日(南牧村役場)
- 3) 日本政策金融公庫との共同事業への協力「ダイバーシティ推進による新しい時代の働き方を考える ～日本政策金融公庫の取組から～」2019年12月19日(高崎経済大学キャリア支援チーム事業)

#### (2) 各種委員会

- ・国営土地改良事業計画に係る専門技術者(関東農政局)
- ・群馬県情報公開審議会委員
- ・群馬県環境審議会委員
- ・群馬県卸売市場審議会委員
- ・群馬県国土利用計画審議会
- ・地産地消コーディネーター(一般社団法人都市農山漁村交流活性化機構)
- ・内閣府総合特別区域の専門家評価に係る委員

## 2 その他の事項

### 3 次年度以降の計画・抱負

次年度以降の抱負として、現地調査を増やし、さらに理論面、実証面を充実させた研究報告、論文執筆を行うことである。